

回光 えこう

創刊号 No.1
2006年1月10日発行
化学療法センター・ニュースレター編集委員

東北大学病院化学療法センター・ニュースレター「回光」の発刊にあたって

東北大学病院化学療法センター長
石岡 千加史

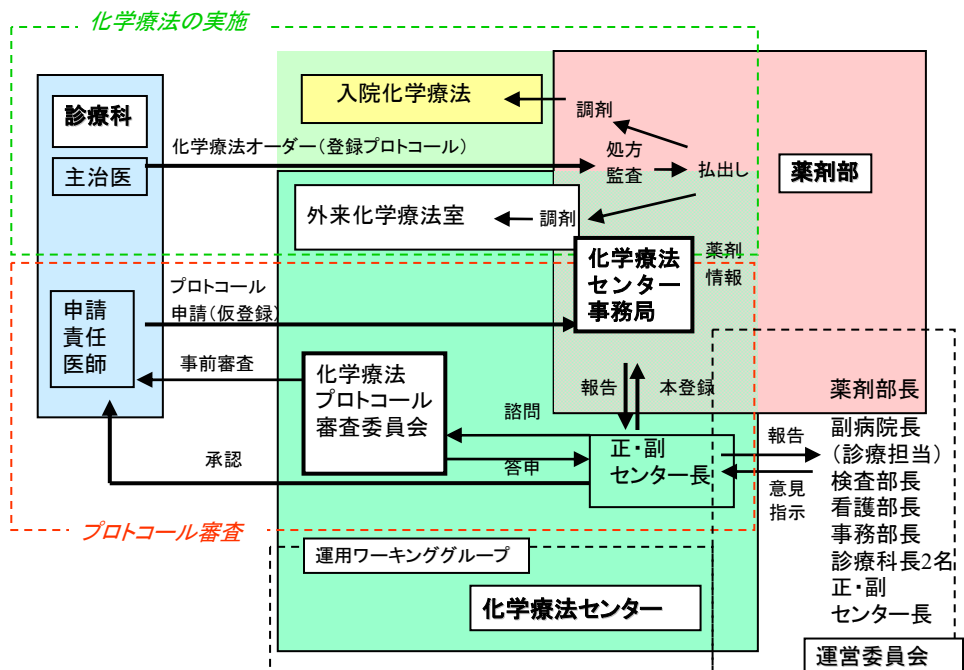


2004年4月に開設された外来化学療法センターは、本年6月から「化学療法センター」と改称し、外来のみならず入院を含めた院内全体の化学療法をマネジメントする組織に生まれ変わりました（図1参照）。この度、化学療法センターの活動を病院職員はもとより、他施設の医療従事者や、病院を利用される皆様に広く知っていただくためのニュースレター「回光」を刊行することになりましたので、センターを代表してご挨拶申し上げます。

当初、センター開設準備は他施設の見学や準備委員会を重ねて運営方法を1つずつ決めていく手探りでのスタートでしたが、関連診療科、看護部、薬剤部ならびに検査部のご協力とメディカル IT センターの強力なご支援により、東北大学病院独自の方式により発展的に運営されるようになりました。

関係各位のご協力にこの場を借りて御礼申し上げます。外来化学療法室では、医師、看護師、薬剤師、検査技師、ITセンターのスタッフから構成される化学療法センター運用ワーキンググループが運用方法を決定し、抗がん剤の調剤から投与終了まで化学療法の安全性を確保できるシステムを構築しています。センターはチーム医療の

図1 化学療法センターの組織概略

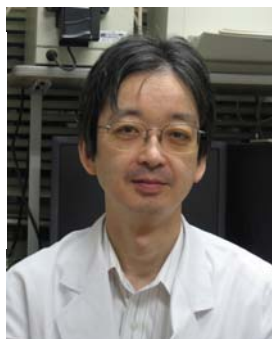


注) 回光(えこう) : 禅語の「回光返照(えこうへんしょう)」から「回光(えこう)」と名づけました。オリジナリティーを大事にしたいですね (センター長)

実践の場としても機能しており、これまで複数の地域がん診療拠点病院（東北労災病院、宮城県立がんセンター、石巻赤十字病院）や県内基幹病院（みやぎ県南中核病院など）からの医師、薬剤師、看護師の見学を受け入れおられます。また、国立病院機構仙台医療センターからは医師、看護師、薬剤師のチームで講演に招請されるなど、外来化学療法室の運営に関しては県内の各病院から注目されています。現在、外来棟 5 階に 12 ベッドを設置した外来化学療法室には 400 人（月延べ利用者数）を越える患者さんが利用するようになり、いよいよ手狭になってきました。来年 10 月の新東病棟オープンと同時にその 4 階部分に移転、30 床に施設を拡張して小児化学療法や一部の入院化学療法を受け入れる予定です。センターの運営は 1) 運営委員会がセンター運営の掌握と方向性を決定し、実際の運用は 2) 化学療法センター事務局、3) 化学療法プロトコル審査委員会、4) 化学療法センター運用ワーキンググループが担当しています。今後、センター・ニュースレターでは運営委員会、事務局、審査委員会、ワーキンググループから、活動状況や最近の話題、利用情報などを取り上げます。第 1 号では化学療法センターのこれまでの活動状況について、スタッフの自己紹介を交えてご報告いたします。皆様のご意見を反映しながらより良い化学療法センターを目指してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

外来化学療法センターから化学療法センターにいたるまで

東北大学病院
化学療法センター
副センター長
吉岡孝志



1. 外来化学療法センター

患者様の日常生活を送りながら癌治療を続けたいという希望と医療機関側の入院期間短縮の必要性から、外来癌化学療法が増えてきました。外来化学療法センターは、患者様に快適な環境下で安全に癌化学療法を受けていただき、かつ医療機関側としても業務の効率化を図る目的で、2004年4月に開設されました。

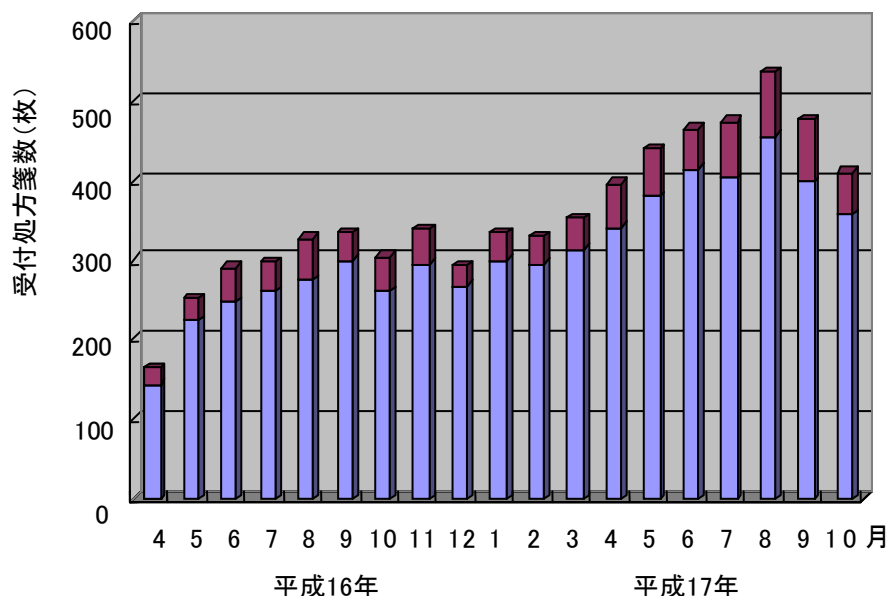
開設の計画は2003年春より検討されていましたが、実際に決定したのは2004年初頭で、

実際の準備期間が1ヶ月程度と非常に短かったため、センターの運営に関するとりあえずの内規・安全対策・プロトコル等を作成、実際に運用していく中で問題を抽出し改善していくというスタンスで開設に臨みました。

当初、予約方法の煩雑さやプロトコル治療に関する意識のずれから、様々な問題に突き当たりましたが、各科の先生方のご協力と看護部・薬剤部の努力のおかげで徐々に改善され大きな事故も無く軌道に乗って行きました。利用者の数も月間延べ100人から順調に伸びていき、10月頃には300人程度まで増加しました。その後しばらく300から350人で一度頭打ちになったように見えてましたが、本年度に入り再び増加、利用診療科も増えたこともあって、月間延べ450人を前後するところまで来ております(図1)。

また、ITセンターのご尽力により東北大独自の外来化学療法オーダーリング並びにプロトコール管理システムを立ち上げていただき本年3月より本格稼働、外来化学療法についてのオーダーリングの簡便化・調剤を担当する薬剤部とのスムーズな連携・化学療法センター内のベッド管理・医事会計システムとの連動・プロトコール管理の向上につながっているものと考えております。

図1.外来化療センター月別利用状況



2. 化学療法センターへ

癌化学療法は、本来患者様ご

とに入院・外来の別を問わず安全に遂行されるべきもので、そのためには外来治療だけをマネジメントするのは片手落ちであろうということで、本年6月より「化学療法センター」と名称変更され、一段上位の位置付けとなりました。すでに開始しておりますが、今後も外来・入院問わず院内全体で行われている癌化学療法のマネージメントならびサポートを行うべく活動していく予定であります。

受付総処方箋数:6824枚

■ 調製枚数

■ 中止枚数

外来化学療法室(看護師部門)

化学療法センター
看護師
五十嵐 厚子



患者数と激増し、12床のベッドでいかに待ち時間が少なく患者様が安全に快適な環境で治療を受けられるかが私たちの腕の見せ所です。絶妙なタイミングで調剤してくれる薬剤師と連携を図り、患者様の血管を凝視して医師へバトタッチ。治療中は目を光らせ患者様のケアや有害事象・セルフケアの指導に当たっております。

センターでのインシデントとしては、血管外漏出2件とバクスター関連3件があります。患者様と共に抗がん剤による皮膚損傷を予防するため早期発見に努め、漏出時は医師によるマニュアルに沿った処置が施されます。また、バクスターインフュージョンによる在宅での

化学療法センター開設1年が経過し、メンバーも一新。今年からクラークも導入され、岩淵師長を筆頭に専任スタッフ4人で現場を日々走り回っております。今春から月450人前後の

抗がん剤治療を受ける患者様が多く、ポート針の自然抜去やラインの接続不備などがあります。私たち看護師は、患者様自身が治療・ケアを意識して自己管理していけるようパンフレットを作成して指導を強化すると共に、スタッフ間でのダブルチェックの徹底を実施しております。より安全な物品や固定方法を試行錯誤しながらインシデント予防に日々努めております。

4人のスタッフを御紹介します。がん疼痛看護認定看護師の資格をもつ武田真恵看護師は冷静沉着でセンターの母として頼りになる存在です。



外来5階のスタッフと一緒に外来化学療法室にて

菅原礼子看護師は小さな体で大きなパワーと大きな声でいつも現場が明るくなります。10月からは司令塔・高橋哉子副看護師長が加わり、ベテラン看護師3人で患者様の安全をお守りしています。天然？ボケの私はしばらく長期研修で不在になりますがパワーアップして戻ってきます。

外来化学療法センター調剤室



薬剤部薬品調製室
吉中 千佳

「外来化学療法センター調剤室（以下化療調剤室）」は外来棟5階化学療法センターの中に

位置しています。ここで通常、専任1名を含む2～3名の薬剤師で調製を行っています。化療センターにおける抗癌剤調製を簡単に紹介致します。まず前日に薬剤部薬品管理室でプロトコールに基づいた処方チェックを行った後、化療調剤室に薬品が搬送されてきます。化療調剤室では、それを各患者様のRp毎に使用する薬品、シリンジをセットし、仮処方箋に溶解量や調製方法を記載することにより、当日の調製を少しでも速くして患者様の待ち時間を短縮するよう心がけております。当日の調製の際は処方確定後に改めて処方確認し調製を行っています。

調製は必ずダブルチェック体制で、薬品名、処方量、溶解量、患者名などを声に出して確認し、安全性を担保する体制をとっています。その後異物検査を行ってから看護師さんへ調製済み薬剤を手渡し、患者様に供されます。

化療センターにおけるチーム医療の中で、患者様により安全で信頼性の高い癌化学療法を提供したいと思いつながら毎日上記の業務を行っています。



調剤室スタッフ

後列左から安田千賀薬剤師、高橋千香薬剤師、小川義敬薬剤師
前列左から遠藤真理薬剤師、吉中千佳薬剤師、添野恭子薬剤師、吉沢早季薬剤師

化学療法センター事務局

事務局 草場 美津江



化学療法センター事務局

左から

後藤順一事務局長、
草場美津江薬剤師、
高橋克史薬剤師

本年4月に制定された「化学療法センター内規」に則り薬剤部内に設置されました化学療法センター事務局は、後藤事務局長のほか

2名の事務局員（草場・高橋）で構成されています。本事務局の設置目的は「院内で実施される化学療法プロトコルの登録及びデー

夕管理を行うほか、化学療法プロトコルに関する窓口業務を行う（内規）」ことで、特に化学療法プロトコル審査委員会の運営業務に関わっています。

現在院内で化学療法に用いられているプロトコルは、外来ならびに入院合わせて 200 件を超えると推測されますが、今後は院内で

の標準化のために全てプロトコル審査委員会の審査対象となります。本審査委員会は、先ず外来化学療法に用いるプロトコルから毎月 10 件程度を審査していく予定です。

新たにプロトコルを申請される際には、事務局 (chemo.jimu@pharm.med.tohoku.ac.jp、PHS5983) にご連絡ください。

化学療法プロトコル審査委員会について ～プロトコル審査と化学療法の標準化～

東北大学病院化学療法センター長 石岡 千加史



2005 年 10 月のプロトコル審査委員会

2005 年 6 月から薬剤部を本拠地に化学療法センター事務局（薬剤部に設置、事務局長は後藤順一薬剤部長、事務局員に草場美津江薬剤管理室長、高橋克史薬剤師）が立ち上がり、7 月からは事務局の強力なサポートのもとで化学療法プロトコル審査委員会が本格的に動き出しました。審査委員会は本院で実施される各プロトコル（レジメン）の有効性・安全性について文献、各種ガイド

ラインや研究計画書を基に審査（表 1 に、審査基本方針）し、より安全で質の高い化学療法の提供を目指すとともに、化学療法の実地医療と臨床研究を行なう診療科を支援します。

表 1 審査基本方針と審査に当たって留意すべき事項

1. 審査基本方針

化学療法プロトコル審査委員会におけるプロトコル審査は、本院内で実施される全ての化学療法（抗悪性腫瘍薬を対象、実地医療としての医療のほかメーカーまたは医師主導の治験、医師の自主的臨床試験を含む）に関して、その質、安全性ならびに効率性の確保を目的に、医学的・薬学的エビデンスに基づいて審査するものである。

2. 審査に当たって考慮すべき事項（省略）

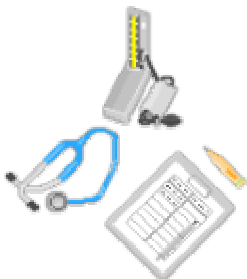
現在、院内で実施されている化学療法プロトコールの中には標準治療としてエビデンスレベルの高いもの、研究計画書がIRBや倫理委員会で承認されている治験、自主的臨床試験（自施設、多施設）のほかに、その位置づけが不明瞭なプロトコールも散見されます。近い将来、がん治療成績の評価が求められるようになると、本院の日常治療の質を保証し、臨床研究レベルを向上させるためには、実施される治療内容の位置づけを明確にすることが基本になります。



現在、審査委員会のメンバーは、委員長（センター長）、後藤順一委員（薬剤部長、事務局長）、吉岡孝志委員（腫瘍内科、副センター長）、石澤賢一委員（血液・免疫科）、石田孝宜委員（乳腺・内分泌外科）、高野忠夫委員（婦人科）、井上 彰委員（遺伝子・呼吸器内科）、我妻恭行委員（薬剤部）で構成され、事前書面審査と月1回審査会を開催しております。また、各診療科のプロトコール申請責任医師により、外部査読者をお願いしております。新規プロトコールの審査とともに既に登録されている院内全体の約150プロトコールの審査を今後1年~1年半かけて完了する予定です。審査員の皆様にはご多忙のところ事前査読や審査会にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

近い将来、特定機能病院は中核的地域がん診療拠点病院として既存の地域がん診療拠点病院に対して指導的立場が期待されています。その場合の必要条件として、専門医育成、院内がん登録のほか腫瘍センター（仮称）による診療科横断的がん治療体制が必要になります。そのような状況下で化学療法プロトコール審査体制を確立し、治療の標準化と臨床研究の支援を行な

うことは中核的地域がん診療拠点病院に必要な機能になるはずです。また、プロトコール審査の過程は広くがん治療を理解する絶好の機会であり、がん薬物療法専門医やがん治療認定医を目指す医師や関連認定資格の取得を目指す薬剤師、看護師にとって教育的な機会になると考えられます。将来、化学療法センターが、がんの包括的治療センターの一部として、また医師、薬剤師、看護師の研修の場として発展するように期待しております。



部局紹介 化学療法センター看護部

このコーナーでは毎号、各部局のスタッフを写真入りでご紹介していきます。当センターを利用される患者さんにとっても、一緒に働くスタッフの皆さんにとっても、顔と名前が一致することは安心感、連帯感につながると思われます。また、このコーナーを足がかりにニュースレターを皆さんで参加できる交流の場にしていきたいと思っています(編集委員)。

今回は外来化学療法センター看護部のスタッフをご紹介します(順不同です)。



武田 真恵 看護師

「この4月から化療センターに来て8ヶ月。まだ戸惑うことも多いですが、患者様に安全で優しい看護を心がけていきたいと思ひます。」



高橋 哉子 副看護部長

「10月より配属になりました。ヨロシクお願いします。」



五十嵐 厚子 看護師

「患者様もスタッフも、来てよかったと思ひるセンター作りを心がけたいと思ひます。」



菅原 礼子 看護師

「高いレベルを目指し、自分ができる事をただひたすらに頑張るのみ!です。」

編集後記

化学療法センター・ニュースレター「回光」の記念すべき創刊号発行にこぎつけることができました。お忙しい中、御寄稿頂いた方々には大変感謝しております。このニュースレターが化学療法センターについて多くの病院スタッフ、患者さんに知って頂くきっかけとなり、またセンターに携わるスタッフの交流、業務の改善に役立つよう発展させていきたいと思ひます。(文責：下平)

ご意見、御希望、御投稿をお待ちしております。

(E-Mail: hshimoda@idac.tohoku.ac.jp)

Tel: 022-717-8547 腫瘍内科・下平まで)。



編集長

下平 秀樹(腫瘍内科)

編集委員

五十嵐 厚子(看護部)

吉中 千佳 (調剤室)

高橋 克史 (事務局)